

平成23年度 学校評価計画中間評価結果報告

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判断基準	集計結果	分析
1	個に応じた指導を通して、基礎学力の向上を図る。	① 生徒の興味・関心や意欲を引き出すための工夫改善を図るとともに、個の能力・適性に応じた授業づくりを行う。	生徒評価で、授業がわかると思っている生徒が A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C・Dの場合は、各教科の評価内容を全員で検討し、次年度への方策を探る。	よくわかる 40.5% ほぼわかる 44.5% あまりわからない 11.8% わからない 3.2%	B [目標達成] 「よくわかる」「ほぼわかる」合わせて85.0%であるから目標は達成である。昨年度に比較して16.9ポイント増である。生徒の特性把握と個に応じた学習支援が進んだ結果であると思われる。
		②	自分の授業について A ほとんどの生徒は理解している B ある程度の生徒は理解している C あまり生徒は理解していない D ほとんどの生徒は理解していない	A・Bの合計が70%未満の場合は改善策を検討する。	A 0.0% B 95.6% C 4.4% D 0.0%	A + B = 95.6% [目標達成] 目標達成ではあるがA0.0%は残念である。教職員が自信を持ってAと自己評価できるようにさらに授業改善に取り組みたい。
		③ 基礎学力の不足や特別支援が必要な生徒、進学を希望している生徒に対して、放課後や休業中を有効に利用して個別指導を行う。	生徒の実態に合った個別指導が A 当初の目標どおり達成できた B ある程度達成できた C あまり実施できなかった D 全く実施できなかった	A・Bの合計が60%未満の場合は改善策を検討する。	A 4.6% B 90.8% C 4.6% D 0.0%	A + B = 95.4% [目標達成] 大人数の授業があるのでC4.6%があると思われる。さらに授業改善に取り組みAが増加及びCがなくなるように努力したい。
		④	補充授業の成果について A ほとんど理解できるようになった B ある程度は理解できるようになった C あまり理解できない D ほとんど理解できない	A・Bの合計が50%未満の場合は改善策を検討する。	A 20.0% B 80.0% C 0.0% D 0.0%	A + B = 100.0% [目標達成] 「補充授業の内容は理解できる」と補充授業を受講した生徒は答えているが、その結果が通常授業に反映されるかが課題である。
2	教育活動全体を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	① 登校時や下校時及び来校者に対してしっかりと挨拶ができるようにする。	自らすすんで挨拶をする生徒が全体の A 80%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C・Dの場合は、改善策を検討する。	自らすすんで挨拶ができると答えた生徒が全体の 58.6%	C [目標未達成] あと1.4%で目標達成である。目標達成を目指して改善策を検討し全職員で取り組みたい。

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判断基準	集計結果	分析
2	教育活動全体を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	② 授業を通して、人の意見を聞いたり自分の意見を発表する機会を多くつくり、コミュニケーション能力の向上を目指す。	一人一人の生徒と授業中、2回以上コミュニケーションを図る。 A 当初の目標どおり達成できた B ある程度達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった	C・Dの場合は、改善策を検討する。	A 21.7% B 56.5% C 21.8% D 0.0%	A + B = 78.2% [目標達成] 目標達成ではあるが、C 21.8%は大人数の授業や教科の特性によるものと思われる。それらの授業でA、B評価をとることは困難であるが、それでも授業改善に取り組みたい。
		③	授業中、自分の思いや考えを伝えることができる A ほとんど伝えることができる B ある程度伝えることができる C あまり伝えることができない D ほとんど伝えることができない	C・Dの場合は、改善策を検討する。	A 28.7% B 37.6% C 24.7% D 9.0%	A + B = 66.3% [目標達成] 目標達成ではあるが、少なくともDは無くしたい。生徒の特性にもよるが、個々を大切にしたい指導・支援に取り組みたい。
3	進路意識を高め職業観の育成に努める。	① 個人面談や授業、様々な教育活動を通して、進路意識や職業観を啓発する。	生徒に対して進路意識が向上するよう積極的に働きかけた A 十分行った B ある程度行った C あまり行わなかった D 行わなかった	C・Dの場合は、改善策を検討する。	A 37.5% B 58.4% C 4.1% D 0.0%	A + B = 95.8% [目標達成] 目標達成ではあるが、C 4.2%の理由を調査し、A + B = 100%となるように取り組みたい。
		② 消極的でアルバイトもできない生徒に対して、インターンシップの導入に取り組む。	インターンシップの実施は A 80%以上達成できた B 60%以上達成できた C 50%以上達成できた D 50%未満であった	C・Dの場合は、改善策を検討する。	年度末に調査する	
		③ 一人一人の生徒に目を向けた指導を通して、進路実現を図る。	卒業生の進路決定率が A 95%以上である B 90%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C・Dの場合は、改善策を検討する。	年度末に調査する	